

## 第三回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成26年9月19日（金）午後3時～5時
2. 場 所 南区役所3階会議室
3. 出席委員  
高智穂委員、浦田委員、福田委員、荒牧委員、近藤委員、飯田委員、松岡委員、濱崎委員、植村委員、森委員、岡委員（副会長）、宮本委員、石原委員、吉村委員、田中委員（会長）
4. 配布資料
  - (1)－「会議次第」
  - (2)－「委員名簿」
  - (3)－「【資料1】南区まちづくりビジョンの実現に向けて」
  - (4)－「【資料2】平成27年度南区まちづくり推進事業について」
  - (5)－「わくわ区ワークショップチラシ」
  - (6)－「南区地域防災フェアチラシ」
  - (7)－「子どもいきいき学びフェアチラシ」
5. 次第
  - (1) 開 会
  - (2) 平成26年度南区まちづくり推進事業の進捗状況について
  - (3) 平成27年度南区まちづくり推進事業について
  - (4) その他
  - (5) 閉会

## 6. 議事録

会 長 平成26年度の南区まちづくり推進事業の進捗状況について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (資料1について説明)

(保健子ども課、農業振興課、まちづくり推進課より各事業の説明)

会 長 今年度の事業の4本柱の「情報の受発信」、「人材育成」、「テーマ型のまちづくり」、「エリア型のまちづくり」について意見や質問はないか。

A 委員 まち歩き手帖は第1版、2版とも大変素晴らしかったので、第3版を楽しみにしている。加勢川カヌー下りなどの地域連携支援事業がもっと強化されれば、地域住民の意識度が高まるのではないかと感じた。

会 長 保健子ども課や農業振興課の職員は実際にまちづくり事業に関わってみてどう感じているか。

保健子ども課長 健康づくりトライアル事業では開始前と開始後のわずか2ヶ月で成果が上がったことに保健師達も驚いていた。歩くことだけではなく、健康を意識することが大事なので、まち歩き手帳を活用して、一緒に歩くイベントについても検討している。歩くことが健康に直結してるということを職員も参加者も改めて感じる事ができた。

農業振興課長 「南区を自然でつなぐ実行委員会」を立ち上げてみて、私達が農政で見る考え方と全く違う目線の話があり、地域にはこんな考え方もあるんだなと思った。農業と直接は関係ないことでも、まちづくりに必要なえ方がいっぱいある。また、区内の地域と地域が繋がっていくために自然を通してやると、子どもが参加することに伴い保護者の参加にもつながるので一石二鳥だと思う。早く区の融和ができればと思う。

会 長 行政が「自分達は良いことをやっている」と自覚することは大事なことだ。来年度の提案まで出ていて、職員の方には「来年度はもっと良いものができる」という思いで取り組んでいただきたい。担当課だけでなく、他課の目線も入ることでどういったことが向上したかを記録として残すと良いのではないか。農政側と見方が違うことに気づいたことはとても大事なことで、それが直接関わりはなくても、別のところで活かされてくるかもしれない。自然を活かした地域連携支援事業はB委員も関わっておられるがどうか。

B 委員 民間団体が何かしようとするとき、みんなそれぞれ仕事を持っているので、事務局を機能させることに非常に苦労する。今回は事務局機能を行政側が担

当し、民間と上手に連携しながら取り組めたことが良かった。

会 長 ぜひ来年度以降にも繋げて行っていただきたい。

C 委員 まちづくり推進経費予算について、今年度予算は1千万増額の2千万だが、南区がいきいきとなるまちづくりを2千万で本当にできるのか、という疑問がある。私達委員は毎回会議に出席し、どうにかして南区を“いきいき”したまちにしたいという気持ちで参加している。5区とも同じ2千万の枠でまちづくりができるはずはない。南区と他区は環境が違う。農業振興もあるし、歴史文化もあるし、産業も多岐にわたる。それぞれの区の特徴を出すというのは、区長の希望でもあるし、本庁と掛け合いながら予算の獲得、区長の権限強化などを進めるべきではないか。

区 長 コミュニティ補助金については、上限2百万円まで活用したのは南区と西区の2区だけで、他区は百万円や130万円などで、南区としては最大限活用できたかなと思う。現在、健康まちづくりやハザードマップ等様々な事業を進めており、「いきいき暮らしのまち」の実現のためににいくら必要かという検証はできていないが、まずは来年度もこの2千万円でやってみて、いろいろなアイデアが地元から湧いてきて増額した方がいいというような話になれば、私も区長として頑張らないといけないうらうと思うし、いずれそういった時期は来るとは思うが、今はそういう状態だ。

C 委員 申請できるのは初年度立ち上げの時だけで継続での申請はできないのか。

まちづくり  
推進課長 今までは継続的に使える備品の補助などだったが、今年度からは新たに事業を展開・拡大する場合に事業費補助も出すことになった。ただ継続事業は対象ではなく、立ち上げた初年度だけが対象となっている。あくまでもコミュニティづくりの活性化を目的としているので、新たに事業を展開していただきたいということで進めている。

C 委員 せっかく立ち上げたなら、継続していくための予算・財源も確保して、それを南区のまちづくりに繋げていけたら良いと思う。

区 長 熊本市自治基本条例では、住民の自主自立のまちづくりを掲げている。基本的には自治会や寄付、スポンサーなどによる持続可能な仕組みをまずは作っていく必要があると思う。その上でやはり最初の立ち上げ時、備品などの初期投資部分を支援しようとなっており、継続のための運営補助費という考え方は基本的でない。それぞれの地域で持続可能なものを考えたうえで立ち上げていただきたい。

D 委員 補助率は2分の1なので、事業費の半分は自治協議会が負担することになり、毎年半分の資金を自力で調達しなければいけないので大変だ。

- C 委員 自治基本条例の見直しの中でもそのことが議論されていると思うので、そのあたりを具体的につめていく必要があるのではないか。
- 会 長 それでは、2つ目の議題に移る。2つ目の議題「平成27年度 南区まちづくり推進事業」について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 (資料2について説明)
- 会 長 事務局からの説明を踏まえて、自由にご意見いただきたい。
- 副 会 長 ③南区まちづくり情報交流拠点設置事業の目的は、まちづくり情報交流拠点を活用し、地域の情報共有の仕組みをつくることだ。これは情報の出入口になる所なので、集める仕組み、それを出す仕組み、共有する仕組みをどこでどう考えるのかということをお皆さんに議論していただきたい。これがうまくいくと、「発表会」「自慢大会」など、その他のところにも地域づくりにつながっていくのではないかと思う。それと、⑩健康のまちづくり拠点支援事業については、実際に動いているのか。
- 保健子ども課長 最初は1校区だけをモデル校区としていたが、事業展開される校区がどんどん増えており、何件か希望をいただいている。予算は6校区だったが、1つでも多くなってほしい。
- 副 会 長 今年度の事業が来年度に繋がるような仕組みづくりが大事だと思う。あと、③南区まちづくり情報交流拠点設置事業をどう使うかが予算にもつながってくると思う。
- 会 長 具体的に③南区まちづくり情報交流拠点設置事業の240万円はどのような使い方をするのか。
- 総務企画課 南区管内6つのまちづくり交流室に、行政と地域の団体等のそれぞれのまちづくり情報を一堂に集めて、ブースのような囲みを作り、情報を集約できるパネルを設けて、拠点作りをやっていきたいと考えている。以前、まちづくり交流室へ人が寄って、集まって、色々な話ができるようなものにしたいという話があったが、予算の関係もあり、情報を出すためのパネルを設置するところまで今年はやりたい。240万円の内訳としては、1箇所35万円位のブースの設置費用が6箇所分で210万円、情報を発信するための広報費用が1箇所5万円、合計240万円となる。
- A 委員 自分にとっての懇話会のテーマは人づくりをどうするかということだ。「①南区を知ろう」の事例として「まちづくり情報交流拠点を活用し、地域の情報共有の仕組みをつくる」と記載してあるが、そういうまちづくりの事例共有

と併せて人材育成の情報を共有できる方法はないのだろうか。人づくりの事例が共有できれば、遅れている所や困っている所はそれを参考にできる。特に平成26年度に行われている健康・防災のまちづくりについて、後継者になる担い手がない所は、どうやってその人材を見つけ出し、育成するかについて悩んでいる。例えば、「自分達はこうやって発掘し育成し継承しているよ。」というような情報の発信をそれぞれのまちづくり交流室でできれば、それを見に行くだろうし、冊子があればそれを参考にしながらまちづくりの人材を養成することもできる。私だけではなく、あちこちで担い手がないとの話を聞くので、できれば人づくりの拠点となる為の情報の発信と受け入れをしてもらい、それを基に人材を集めることができればいいなと思う。

会 長 情報交流拠点設置事業は、「苦労があったけど、こうやって解決した」とかの自慢大会が行われるというイメージだと思う。南区での発表会や自慢大会、悩み相談でもいいと思うので、そういうことをやっていくと良いのではないか。お金をかけて作っても、情報受発信は場所を作るだけではだめなので、どう活用して行くかを考えながらやっていかなければいけない。総務企画課としては情報交流拠点をどう使っていくかについてどのように考えているか。

総務企画課 地域のまちづくり情報や事例などを集約したり、地域と行政が情報を共有できる場所にしたい。公民館だよりなどで情報を一方的にお知らせすることができるが、地域の人が情報を置きにくる場所というのがこれまでは無かった。地域のまちづくり情報を一点に集められる場所を設置するという目的で、そこに色々な方が情報を取りに行けるようになると住民同士が繋がるので、行政からのまちづくりに関する情報、地域に関するまちづくりの情報、地域からあげていただく色々な団体や自治会等からの情報を集約する場所として設置するものだ。A 委員より意見いただいた人材育成など具体的な想定は現状でしておらず、使い方については次年度考えていかなければならないことで、この懇話会の中でもご意見をいただければと考えている。

E 委員 せっかく各まちづくり交流室があるので、地域の情報を拠点として取り扱うような体制を作ってほしい。

会 長 まちづくり交流室に対する期待があると思うが、場所ができただけでは情報を集めたり出したりするのは難しい。何をどう扱うかはこれから議論する必要があるが、まちづくり交流室単位でどうやって行くかを議論して、情報の受発信については要望もあると思うので、それを南区全体で議論していく体制が必要かと思う。今でもまちづくり交流室は定例会というのをされていると思うが、③南区まちづくり情報交流拠点設置事業については議論されているか。

まちづくり  
推進課長 まだ議論はできていないが、地域のまちづくりの受け皿は、一番身近なまちづくり交流室がなるべきだと思う。まずは地域のいろいろな活動をまちづく

り交流室で受け止めて、区役所はどちらかというところを支援するような形が望ましいと思う。

副会長 総合計画の見直し委員会でも少し問題になったが、現在はまちづくり交流室が公民館にくっついているので、交流室長は公民館長でもあるため、社会教育の公民館事業に追われて、交流室の業務ができていないことが結構多いと聞いている。だから、情報交流拠点設置事業にあたっては、交流室・公民館の人数の拡充は無いのかという議論が委員会が出た。そういうところも念頭に置きながら、やはり南区としてどのようにまちづくり交流室を利活用しつつ、そして運営していくのかということをご皆さんに考えていただききたい。そこには地域の協力も必要だし、交流室の方の努力も必要だし、行政側は筋道の整理をしっかりとっておかないと、そこがパンクしてしまう。情報は待っていると来るものではなく取り行くものだと思うので、そうなると交流室の負担も増えることになり、そこも考えながら議論をしていかないといけない。

F 委員 昨年までは校区の祭りを合併特例区ですべてやっていたが、今年は自治協議会でしないといけなかった。だが、自治協議会だけではできず、まちづくり交流室が全面的にバックアップしてくれたおかげで、名称も変えて、とても変わった形の夏祭りがあった。地域の行事をするには、まちづくり交流室・公民館を含めて、すべてバックアップをしてもらわないと成り立たない。交流室の手伝いがなければ、色々な催しも衰退していくと思う。加えて経済的なことでもしていただけるなら助かるが、今後もまちづくり交流室は必要だと思うので、是非携わっていただきたい。

G 委員 今の祭りの話について、F 委員は行政に手伝ってほしいとのことだったが、私達は手伝ってもらっていない。私は行政の方がいないほうがやりやすい。正直なところ、資金面で応援していただくのは大変助かるが、行政が祭りにまで参加されると地元としてはやりにくいところが一面ではあると思う。

F 委員 自分たちだけで何十回と協議したが、富合はコミュニティセンターもないので、自分たちだけではできなかったので助かった。

会長 地域ごとの事情や経緯もあると思うし、資金面も大事ですが、皆さん今までの知恵で上手にやってこられたと思う。これからは継承していくためには、南区がこんなにバラエティのある地域なんだということを示すことが大事だと思う。

副会長 住民主体で行政が支援する協働の形なのか、50 : 50 の形なのか、もしくは行政が行いながら住民が支援する形なのかという協働の幅の中で、色々なパターンが地域の事情にあると思うので、そこをうまくコーディネートしていくことが交流室の役割になると思う。地域情報をしっかり交流室が持っていないといけない。

- C 委員 城南地域でも自治会だけでは祭り一つやることも難しいので、私達文化協会も入っている。まちづくりには自治協だけではなく、各種団体など色々な参画団体がいる。トータル的なまちづくりの組織体制を考えていけたらと思う。各種団体がそれぞれをネットワークでつなげながら一つの祭りをやっていけば、お互い負担が軽減されると思うので、副会長がおっしゃった協働という内容的な扱いになるのかなと思う。
- D 委員 まちづくり交流室の職員も入れ替わりがあり、「市民のつどい」をやるにも新しい職員が昨年の資料を引き出して、研究しながら応援してもらっている。私は実行委員長だったが、自治協議会が運営して指揮をとらないとやっていけなかった。他にも色々な行事を行うにあたって、何か問題があった時にその場で議題にして他の人の意見を聞いたり、自分の意見を述べたりできると効果があると思う。
- 区 長 富合地区は今年から自治会制度に移行し、自治協主催の夏祭りを行われた。これはとてもエネルギーがいることで、住民の皆さんが考えていることを計画し、準備を進めるには、まちづくり交流室の多くの支援が必要だったと思う。そして、B 委員を中心的にお願いした実行委員会は、会計機能は川尻の商店街でやってもらい、文書の発送や開催通知を出すような事務局機能を農業振興課がお手伝いした。岡副会長が言われたように、幅があって協働の形が色々だと思う。情報交流拠点の使い方の中には、情報を共有することもあるが、まちづくりに参画していない人もその場所に行ったら情報を得て、気分が盛り上がるということも期待できる。自然をつなぐ実行委員会の中でも、ネットワークの中で情報を共有してもらおうという部分もあるし、情報交流拠点においては、自治会や自治協の構成団体などの情報をうまく吸い上げて情報発信できるような仕組みを考えなければいけない。まちづくり交流室が自治会長の集まりの中でうまく情報を集めたり、その情報を発信するとか地元の方々だけではなく機能・仕組みを作ることが非常に大事だ。
- H 委員 私達の団体や社会福祉協議会など熊本市内全体にある団体。そのようなネットワークもとても大切だと思う。
- 会 長 ただパネルがあるだけというような状況になりはしないかという心配がある。作ったからには起動させないと意味が無いので、そこを注意してやっていかないといけない。
- I 委員 祭りの話に関連して、城南町では今年度まで合併特例区事業として全てのイベントをやってきた。8月の嘱託員会議で祭りの話になり、産業振興課職員が規模を小さくした一つの祭りプランを考え、公表されたが、誰も納得しなかった。そのままのやり方で祭りをすれば、2つの祭りで1千万円ぐらいかかるが、それを個人が出すことはとてもできない。これが城南での一番の問

題だ。祭りをするかしないか、するならどの祭りをするのか、お金はどれだけ出せるのか、こういったことはお金があれば全く問題にならないこと。もう一つは人材についてだが、自治会長の後任の選出には一番頭を抱えている。城南町は今しきりに各種組織作りをしているが、会長・副会長の選出でお願いに言ってもほとんどが仕事を理由に断られる。年金をもらえるのは65歳からなので仕事をしているのはわかっている。それでもできる範囲内でやって欲しいということをお願いしているが、なかなか後任が決まらなくて、人材の育成どころか人選に苦労している。情報発信ではその点に力を入れてほしい。

会 長 先程 A 委員からもお話あり、皆さんいろんな所でお悩みで城南町も大変だと思うが、富合町が先にやって同じ苦労をされているので、場所が違うので真似できる所できない所とあるかもしれないが、そこは上手に参考にしてもらいたい。それでは最後に区長から一言お願いする。

区 長 今の I 委員のお悩みは新たな自治会制度に関わるもので、ご苦労一際かと思う。そのような状況は自治協議会の連絡会議を秋に開催するので、その中でも討論できればと思う。情報発信について考えないといけないのは住民の参画の意欲を高めることと、地域でリーダーを見つけていただき、そのリーダーを南区が育成していくということ、やはり3つに分けて考えないといけないと感じている。

会 長 それではこれをもって第3回南区まちづくり懇話会を終了する。